エラー確認の設定

この章の内容は、次のとおりです。

- エラー確認の概要，1 ページ
- 解決状態の作成，1 ページ
- チャネルの作成，2 ページ
- サブスクライバとサブスクリプションの作成，3 ページ

エラー確認の概要

Operations Manager コンソールを使用して、Cisco UCS ドメイン のエラーを確認できます。この設定は、Operations Manager コンソールからの確認アラートについて Cisco UCS と通信する上で役立ちます。同じ管理グループ内のどの管理サーバからでもこの機能を設定できます。

（注） UCS Central 管理パックに対してエラー確認を設定している場合は、UCS Manager 管理パックに対してこれらのタスクを実行しないでください。

解決状態の作成

解決状態を作成するには、https://technet.microsoft.com/en-in/library/hh212928.aspx を参照してください。

（注） 解決状態を説明するような解決状態名を指定します。たとえば、*UCS Acknowledged* など。

チャネルの作成

ステップ 1 [Operations Manager] コンソールで、メニュー バーの [Go] タブをクリックします。

ステップ 2 ドロップダウンリストから、[Administration] > [Notification] を選択します。

ステップ 3 [Channels] を右クリックし、[New Channel] > [Command] を選択します。
[Command Notification Channel] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 [Description] タブで、チャネルの名前と説明を入力します。

ステップ 5 [Next] をクリックします。

ステップ 6 [Settings] タブで、以下を実行します。

名前	説明
[Full path of the command file] フィールド	コマンド ファイルへのパスを入力します。 例： *C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe*
[Command line parameters] フィールド	チャネルのコマンド ライン パラメータを入力します。 例： *-Command "& 'C:\ProgramData\Cisco\Scripts\AcknowledgeFault.ps1'" -instanceId '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom1$' -serviceMachineName '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom9$' -dn '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom10$' -faultCode '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom4$' -faultId '$Data[Default='Not Present']/Context/DataItem/Custom6$'* （注） Operations Manager から UCS 障害を確認できるように、コマンドラインパラメータを正しく設定してください。
[Startup folder for the command file] フィールド	起動フォルダの名前を入力します。 例：`C:\ProgramData\Cisco\Scripts` （注） フォルダを追加する前に、スクリプトのパスと場所を確認してください。

ステップ 7 [Finish] をクリックします。

サブスクライバとサブスクリプションの作成

サブスクライバとサブスクリプションを作成するには、
https://technet.microsoft.com/en-in/library/hh212812.aspx を参照してください。

Windows ファイアウォール インバウンド ルールの作成

Windows ファイアウォール インバウンド ルールを作成し、Cisco UCS モニタリング サービスが稼働しているすべてのマシンのポート 8732 をオープンするようにします。これにより、エラー確認 PowerShell スクリプトと Cisco UCS モニタリング サービスとの間の通信が可能になります。